



大本山永平寺

精進

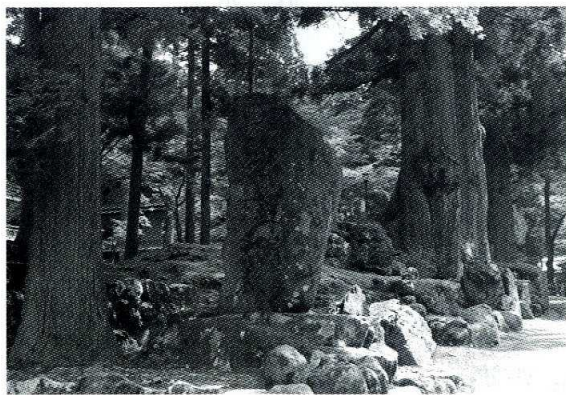
修行を乞うて上山した難僧たちはしばらく「見習い」の立場であり永平寺の正式な雲水ではありません。上山前の生活様式との変化に困惑しつつも、耐え難きを耐えてきた彼らは少しずつですが峻厳な山風に慣れ始める頃であります。

衣食住が急激に変容すると体に大きな負荷が押し掛かり、変調を来す者も少なくありません。「耐えなければ慣れない」「慣れるには耐える」。世間と隔絶

された道場でそれを耐えてきた彼らは今月正式な雲水として承認を受ける儀式「新到掛搭式」を迎えます。

承認を受けた以上は更に精進あるのみでありますので多岐に涉つて勤め、励む日々が連続します。精進の「精」とは混じらないという意です。「進」とはどんなことがあるうと退かないという力強い信念です。

精進とは雑念を混じえぬように修行の道を退かず黙々とコツコツと勤める誓いの言葉であります。ましよう。



様々な支えのなかで彼らの修行は続きます。



大本山總持寺

四月から、修行に専心し自己研鑽に勤めなければならぬ、夏の制中期間に入りました。制中は年に二回あり、ともに百日間続きます。中間にあたる五月は、十三日から十七日にかけて制中五則の行持が行われます。

五則中のすべての法式は宗門の歴史と伝統を受け継ぐもので、しっかり学び、間違えず行うことが大切です。伝統を正しく身な役目といえるでしょう。

十六日には、自省の儀式であり、お釈迦さまの時代に起源を

もつ大布薩ふさつ式が、大祖堂で厳かに行われます。儀式を通じ、修行僧たちは自らの修行のあり方を見つめなおします。

十七日は、制中の一大行持、法戦ほっせん式です。すべての修行僧を統率しゆそする首座が、禪師さまの命を受け、法戦問答をいたします。二十五人の修行僧が首座に問答の戦いを挑みます。緊張感みなぎる真剣勝負の大問答です。首座は自分の力量のすべてを賭してこれに臨みます。千畳敷の大祖堂に大声が響き渡ります。

制中五則を終えると、修行僧

たちの表情もさらに引き締まっています。



曹洞伴壇

選・村松五灰子

付添の妻の寝顔や雪の夜半

愛知県 中根 昴生

評 ふと目覚めれば妻が傍で眠っている。看護の疲れもあるう。しみじみとその顔を労りと感謝の心に見やる。おりから窓には静かに雪は降り続く。余情の深い句である。

息白く大道芸人肩慣らし

千葉県 鈴木 英子

評 周りには観客が集まり始めているようだ。「息白く」が本番を間近にした芸人の緊張の様子を語る。確かな写生がこの句を生んだ。

初句会妣を詠むとき目を瞑る

秋田県 種村 金実

竹串に火の移りたる目刺かな

神奈川県 柳原あきとし

冬の日や田面に早し雲の影

愛知県 平松 京師

手枕に日曜のあり日脚伸ぶ

埼玉県 中島 新一

炭焼の煙を子らに問はれたり

福島県 西木 甚

白菜をさつくり割りて塩ふる夜

東京都 藤橋 眞子

佗助や坐禅を解きて動の世へ

和歌山県 田崎よし子

眼をもらひ初挽こけし雪を見る

福島県 大槻 弘

冬日向壇輪のやうな顔をして

島根県 藤江 堯

寒林を抜けて下校のチャイム鳴る

岐阜県 森本みつる

*選者吟

筈を片手に猿振り返る

五灰子

*作句小見

風の音朴の若葉に来て消える 汀子 夏が始まるこの頃

は里も野山も公園もまた猫の額ほどのわが庭にも、もれなくみずみずしい若葉が生まれて風にあそびます。気持ちの良い

季節です。そんな心で俳句が出来たら嬉しいですね。

曹洞歌壇

選・長澤 ちづ

嫁ぎ来し吾と四十年共に経て桑の播り粉
木短くなりぬ 福島県 齋藤 譽子

評 祖父か父かが桑の木で作ってくれた播り粉木だろうか。
その播り粉木を手にある日蘇つてきた四十年という歲月の重
みがしみじみとした情感と共に伝わってくる。結句の「短く
なりぬ」に丁寧に過ごしてきた人生が見える。

かぐわしき香の元たどればエプロンのポケッ
トに落つるろう梅一輪 埼玉県 富田 純子

評 二句目を受けるのが「ろう梅一輪」だけでも、一首とし
て成り立つところを、エプロンのポケットに落ちたという、
意外性を添えていつそう魅力を増した。

下刈りに汗を流しし日もありき杉山の秀は青空を突く
山口県 浜田 道子
もう少し明るく生きよと叱り見る鏡に映るくもりたる顔
岩手県 池田 眸

無人駅に降りゆく少女に風は吹き夕焼けの街に灯る自販機

山口県 中井 清子

郵便のバイクの避けし落ち椿吾も做ってハンドルを取る

愛知県 小久保左門

八十年母が通いし農道のあの一本の道を恋いにき

東京都 鈴木 正作

葬儀終へ帰る汽車待つ無人駅時計遅れて鳴るもわびしき

秋田県 小田嶋恭葉

雪下ろし済ませて開ける板襖軽き走りに笑む顔映す

新潟県 星野 三興

神経をごまかす術と小さな鉛玉一つ口にふくみぬ

静岡県 青野 いそ

くきくきとさみどりの葉をはがしゆくキャベツは一つと友く
れし球 福井県 三浦 豊子

幾夜さをかけて仕上げし兎糞 男糞の耳の少し傾げる

兵庫県 前田あつ子

*選者詠

色付きし水煙のごとのぼりゆく幼き日の花
立ち葵とは ちづ

*作歌小見

雪国に暮らす方々はこの冬の大雪に難儀されたこととお見
舞い申し上げます。新潟の星野さんの雪下ろしの一首の「笑
む顔」にほっとしました。上句の雪の重い動きと下句の軽快
な動きが良いバランスを保っていると思います。